2003 年度 委員会活動成果報告

（２００４年　3月３１日作成）

委員会名	継続教育小委員会	主 査 名：五十嵐　健
所属本委員会 **（所属運営委員会）**	建築教育委員会	委員長名：西谷　章
設　置　期　間	２００３年　4月　　～　　２００７年　3月	
設　置　目　的 **各年度活動計画**	職業生涯が流動化する中、技術者の継続教育の重要性は高まり、その範囲も職能に連動したＣＰＤから中堅技術者のリフレッシュ教育や研究者・教育者の継続教育まで拡大しつつある。そうした建築技術者・教育者を取り巻く環境の変化を視野に入れ、建築技術者・研究者の継続教育について、今後のあり方と進むべき方向について調査研究を行う。 初年度：創設年度のため、委員の充実、調査研究方法の検討等も含め、委員会の機能整備を中心に予備的調査研究を行う。 ２年度：技術教育のほかに時代の変化に対応した新たな就業能力等も含め、ニーズ及び実施状況の調査研究を行う。 ３年度：現状調査にもとづき、継続教育の在り方と課題について調査研究を行う。 ４年度：継続教育の在り方と方策に関する調査研究のまとめを行う。	
委員構成 **（委員名（所属））**	主査：五十嵐健（九州国際大学）、幹事：鈴木要（芝浦工業大学）、三輪真之（東京デザイン専門学校）、委員：秋山恒夫（職業能力開発総合大学校）、井出尻直美（高度能力開発促進センター）、加藤幸治（加藤建築工房）、小黒利昭（住宅総合研究財団）、竹内壽一（竹内建築総合研究所）、西村直也（芝浦工業大学）、平田京子（日本女子大学）、桝田嘉生（教育と情報の研究所）、柳川裕（建築技術支援協会）	
設置 WG **（WG 名：目的）**	**なし**	
2003 年度予算	１００,０００円	

項　　目	**自己評価**
委員会活動状況 **（開催日・参加人数）**	第１回委員会（４月２１日１０名）　第２回委員会（５月３０日９名） 第３回委員会（６月２４日７名）　第４回委員会（７月２２日１０名） 第５回委員会（９月２４日８名）　第６回委員会（１１月４日７名） 第７回委員会（１２月３日７名）　第８回委員会（２月９日８名） 第９回委員会（３月８日７名）
得られた成果	**（成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無）** **１．各委員の所属団体（建築技術支援協会、建築士会、建築家協会、大学第二部の社会人教育など）を中心に建築分野における継続教育の実態把握を行い、建築技術者の生涯能力開発のあり方と継続教育の課題を検討し、その結果を第４回建築教育シンポジウム（２００４年１月２４日開催）の小委員会報告の中で「動きだした継続教育とその課題」として発表すると共に、建築雑誌４月号今伝えたいトピックスに「キャリア開発－動き出した継続教育の行方」としては掲載した。** ２．上記の研究成果を基に、２００４年度大会の部門別研究集会「キャリア開発のための建築教育を考える」を企画提案し採用された。
	委員会 HP アドレス：
目標の達成度	**（当初の活動計画と得られた成果との関係）** 委員会開催回数９回、検討結果の建築教育シンポジウムでの発表と建築雑誌への掲載、２００４年大会研究集会の企画提案を行い、「創設年度として委員会の機能整備の整備を行いその後の活動につなげる予備的調査研究を行う」という当初の年度目的を達成した。
その他評価すべき事項	秋山委員が第９回技術者継続教育国際会議（２００４年5月１５日から２０日）の発表論文「The Hysterical Circumstances and Trial Cases of Continuing Education in Architectural Field of Japan」を提出。